

令和5年8月10日

無断転載禁止

子育て女性向け「ジェンダーギャップ」に関する

アンケート調査結果

《回答期間》 令和5年7月1日～7月31日 《有効回答数》 116名

一般社団法人ウーマンエンパワー協会では、子育て女性向けイベント・ママハピE X P Oや、子育て世代のためのWEBメディア・ルバートを運営する（株）ルバートと連携し、20～40代を中心とする子育て中の女性たちに定期的にアンケートを実施しています。今回は「ジェンダーギャップ」に関するアンケート調査をいたしました。

《調査背景》

世界経済フォーラムの2023年のジェンダーギャップ指数が発表され、日本は146カ国中125位と昨年よりも順位を落とし過去最低となりました。政府は女性役員比率を2023年までに30%以上とする目標を盛り込んだ「女性活躍・男女共同参画の重点方針2023」を決定したばかりです。

実際に日本で生きる女性たちはどう感じているのでしょうか？子育て世代の女性のリアルな声を集めました。

《調査結果 まとめ》

ダイバーシティや女性活躍という言葉は浸透しつつありますが、令和の時代も20～30代の子育て女性の8割以上は男女格差を感じていることがわかりました。女性として生きづらいと約4割が感じており、多くのコメントからも女性だから「家事育児やキャリアに対してこうあるべき、こうだろう」という暗黙の固定概念や役割意識に、違和感やストレスを感じている方が多いことが見受けられます。

その解消のために、まずは「男性が家庭進出しやすい仕組みや意識づくり」を求める声が多くなりました。また、今回はお子さんの年齢が0～2歳が最も多く、直接子どもとジェンダーについて話す機会はまだない方が多いものの、子ども世代に同じことを繰り返さないために日々の意識や教育に気をつけたいという意見も見られました。

《調査結果 詳細》

設問1【あなたは男女格差を感じるがありますか？】

- ・非常にそう思う 26.7%
- ・まあそう思う 59.5%
- ・あまり思わない 13.8%

非常にそう思う・まあそう思う合計は「86.2%」男女格差を感じる女性が圧倒的に多い結果となりました。

設問2【あなたは「女性だから」「女性らしく」といった固定概念や役割意識から生きづらいつと感じたことはありますか？】

- ・頻繁に感じる 8.6%
- ・たまに感じる 33.6%
- ・あまり感じない 50.9%
- ・全く感じない 6.9%

一番多い回答は「あまり感じない」の50.9%でしたが、「感じる」と答えた人も合計で42.2%おり、男女格差を感じ、女性であることで「生きづらさ」を感じる人も一定数いるという結果となりました。

設問3【設問2で「頻繁に感じる/たまに感じる」と回答された方へ、具体的にその内容をお聞かせください。※自由コメント】

- ・女性だから相手の家に嫁ぐ、長男の嫁だから、と。男性優位の考え方は生まれてすぐに刷り込まれている気がしている。
- ・義理の実家での嫁の役割があるところ。同様に、自分の実家での男性は動かなくても良いという考えが感じられるところ。
- ・女性が子育てメインという考えの社会
- ・結婚 出産 子育て 家事など いまだにあるのがもや~っとしていたけど、今40才を過ぎて、あまり気にしないようにすることにした
- ・家事育児の負担が当たり前のように男性より多く、自分一人で自由に使える時間がほとんどない。
- ・働いてる時に子供が体調を崩すとどうしてもママが仕事を休んで看病するのが当たり前という感じなど子供のことで仕事を休むのはママっていう感じがしている。
- ・仕事はパートだけど、家事育児の負担が大きく、自分の時間が取れない。夫は仕事は大変だと思うけど、帰宅後や休日は余裕があると感じる。
- ・女性は子供ができると仕事が続けづらい
- ・マネージャークラスへの昇進機会の損失。マザートラック回避が困難である。
- ・女性だから、料理をしなければいけない。裁縫ができなければいけない。というようなことがよくある。
- ・女性だから、職場の整理整頓やゴミ捨てを当たり前のように求められます。
- ・当り前に育児休暇を取得しているが、旦那さんは育児休暇の制度があるのに忙しすぎて使えない。
- ・女性が育休を取ったり家事育児をしたりするのは当然のこととされ、男性が育休や家事育児をほんのわずかに行っただけで「イクメン」と讃えられる風潮がまだ色濃く残っているところ。その反面、男性が育休を取ると職場での風当たりが厳しいところ。
- ・子育ては女性主体で行うべきという前提。「イクメン」というワードがあること自体変だなと思ってしまいます。
- ・仕事でキャリアを積みたい気持ちもあったが、若いうちに結婚子供を産みたいという気持ちもあり、とても悩みました。結局子供を早く産むために結婚を選びました。一旦退職したため、復職するのに

仕事内容思い出せるかなどの不安があります。

- ・女性だから、というより、それ以上に母親だから、という意識で、学校行事の対応、個人懇談、子どもの習い事のケアを母親がするべきと自然になってしまっている現状を実感しています。夫も任せきり、習い事のリサーチから決定、宿題まで全て母親がみるのが同然の現状で、とにかく受動的な応対を感じます。
- ・前職で女だから弱い立場という見方をされ見下されたことがある
- ・とにかく、家から出られない。あとは、女だから年収が低いと勝手に決めつけられる。
- ・夏など、薄着でラフな格好をしたいけど、身体的な面でしょうがないけど、男性と女性では同じ露出するでも印象がちがう。
- ・女の子なんだからこうするべきと言われる時
- ・子育てをしていて、保育園の呼び出し対応をするのがどうしてもママに偏りがちで仕事が思うように進められないから。
- ・男性よりも育児して当たり前という風潮に疲れます。
- ・女性だから受付を頼まれたり、宴会時での接待係させられたりする事。女性だから、家庭の事をしっかりやらないといけないという周りの意見。
- ・仕事で上に立つには男の方がいい。という固定概念な人が多い。上に立つのが女だと舐められる、舐めていいと思ってる人が多すぎる
- ・女性があたりまえに家事を全部やるようになっていく風潮は辛いです。
- ・女性だから、出産したら家に入る(仕事をやめる)という風潮がある
- ・求職中の面接や、実際に働いている中で、女性だからと結婚や出産を機にライフステージが変わることへの不安を周りから言われたり態度など。人生のイベントがあるとももちろん仕事に影響は与えるが、しかし女性だからとそこを悲観されるのは納得いかない。逆に仕事仲間で子供の都合で早退や急な休みを取られると、嫌な目を向けてしまうのも共感できる、そもそも日本が働きすぎだし仕事に追われすぎだし、お客様ファーストは素敵だけど細々とサービスに時間と労力を使いすぎなのも問題だと思う。海外はお客と雇用人は対等な立場であり、そもそも国が方針を変えない限り難しい問題だと思う。
- ・女性だから言葉遣いとかうっとうしい
- ・子供が生まれてからの育児について、周りからの声で感じた。
- ・社会の女性への子供を産めと言う圧がものすごく強い、採用でも子供を産む前提で見られる、子供がいない女性への差別がものすごく激しい、子供がいる人は祖母に預ける前提で見えていて祖母への負担を透明化している。
- ・仕事で女性だから選ばれることがあり、負荷が増える。女性起用のアピールに使われる
- ・重要な会議に誘われない。ゴルフはメインではなく補助員として声掛けられる
- ・特に生理が嫌です
- ・男女での役割の固定概念が強い人が年配にやはり多い
- ・女だから何何して当たり前みたいな世間一般の価値観
- ・親戚やメディア、知人などを通じて、家事育児を女性の仕事、または得意分野という昔の時代の価値観を押し付けられているように感じるため。

- ・結婚後の家事分担や子育て、まだまだ社会的にも女性がやるべき風潮がある。
- ・女だからこーしないってないと思う
- ・お茶くみをさせられる。正月は女が料理のしたく、男はなにもしない
- ・女だから、はしゃがないとか、おてんばダメよとか言われて育ってきた。大人になっても、女だからって重要な仕事をまかせてもらえないことが多い。女はいーよとか言われることもある。
- ・働いていると、子供産んでそのまま同じ仕事量ができるとは思えない。
- ・なんとなく
- ・産休、育休が取りづらい
- ・家事や育児に積極的に参加しなければならない固定観念があり、仕事から離れた場合の社会参加の機会が減ってしまうことが問題だと感じます。

設問 4【ジェンダーギャップ(男女格差)を埋めるためには、何が一番必要だと感じますか？「上位 3 位まで」選択してください。】

- ①男性でも育児/介護休暇を取得しやすい職場環境の改善 17%
- ②男性の家庭進出・意識改革 16.5%
- ③柔軟な働き方の浸透（リモートワークや時短勤務など） 15.4%
- ④同一労働における男女の賃金格差の是正 10.5%
- ④組織の経営層、上司の意識改革 10.5%
- ⑥ジェンダーに関する教育を早期から実施する 7.9%
- ⑦ジェンダー平等の発言/発信をしやすい環境づくり 5.8%
- ⑧社会の役割意識や文化の改革 5.2%
- ⑧政治や経済において女性を積極的に重要ポストへ配置すること 5.2%
- ⑩国のジェンダーギャップに対する施策の推進 4.7%
- ⑪その他 1.3%

上位 3 つは「男性でも育児/介護休暇を取得しやすい職場環境の改善 17%」「男性の家庭進出・意識改革 16.5%」「柔軟な働き方の浸透（リモートワークや時短勤務など） 15.4%」でした。上位 2 つは「仕組みと意識」への変化を希望する声となりました。

設問 5【設問 4 で補足コメントがありましたらご記入ください。「その他」と回答した方はこの内容もお書きください※自由コメント】

- ・年代が上の方たちの意識改革はできるのかどうか
- ・政治家は男女半々がいい。そうしないと世の中変わらない。
- ・今 38 歳ですが、20 代前半の頃薬局の販売員だったのですが、まわりはひとまわりふたまわり年上の男性ばかりの環境でしたが、推奨の医薬品販売コンクールなどに力を入れて頑張っていたところ当時の社長に『若い女の子はただレジに立っててくれればいいんだよ??』と言われました。完全にマスコット要員だったことにその時はじめて気がついて、今までの頑張りなども見て貰えてなかったんだなとショックで泣いたのを覚えています。今はその時よりは半分男女平等になってきたとおもいますし、

今の若い男性は横柄な態度や差別をする人はほとんどいないように感じます。

- ・まずはみんなの意識が変わる必要かあると思う
- ・古いお考えを持っている方々が自分の古さを自覚し、意識改革しないと何も変わらないと思います。また、子どもたちはその古い考えの餌食にならないよう、多様な考えや文化を受け入れられる器量のある人になれる教育を提供するのが大人の役目だと思います。
- ・幼稚園、小学校から、ジェンダー教育、子育てに関して正確な情報、参考になるのであれば海外の状況、事例を交えて教えてもらえると、これから成長する子達の意識は間違いなく変わると思います。
- ・男性が積極的に育児に参加しようとする政策が進んできたのは確かですが、それが実施できる環境があることが前提になっています。企業が男女関係なく柔軟な働き方ができる環境を整備し、周りの社員も臨機応変に対応できる制度を早急に国がトップダウンで指示すべきと思います。
- ・男女の平等について声をあげることが恥ずかしい、または無意味に感じている人が多いのではと思います。もっと1人1人が、国がこの声に耳を傾けていけば、意見を発信する人も増え、男女平等が進んでいくのではないかと思います。
- ・制度は整っても、職場のメンバーにそれを受け入れる雰囲気がない
- ・男性育休により夫婦仲が悪化すると思います。妻がイラついて、子どもに当たりそう…
- ・未だに、男性は仕事メインです。我が家は共働きなのに、母親が子どもの送り迎えをするのが当たり前で、父親は出張ばかりで、ほぼ不在。いつも、無理をして定時に帰り、家事をするのが当たり前になっています。でも、自分は男性なのに、料理などの家事ができ、たまに休日にやるから、家庭に協力的だと思っているパパに、いつも腹が立ちます。
- ・ただ、男女格差をなくした場合、例えば生理休暇や女性専用車両というのは廃止されなければならないと思います。平等より公平な社会になって欲しいと願っています。
- ・出産してもキャリアを積みやすいようにして欲しい。
- ・男性が専業主夫をするのが異例な見方もよくないし、育休取ったら出世できないというのもおかしい。組織の上層部や国の意識改革が1番大きい。
- ・チャイルドフリーの生き方を義務教育でも広める、男性が父親になるなら絶対に国から研修を受けないといけないようにする、夜泣き対応をすべて男性がやる
- ・まずは男女関係ない報酬体系と機会の提供・教育と、働き方・休み方を職場が改革した上で、男性も当たり前家庭運営を一緒にすること
- ・国策になるかと思いますが、子供の頃からの教育理念。
- ・政治家の若返り
- ・会社の給与で考えてもやはり男性のほうが昇格に選ばれやすいなどの理由で格差が出てしまうのを感じました。また妊娠中に産休をもらえるまでぎりぎりまで働かないといけない制度になっているのも疑問です。会社からもはっきり言われなくても実質退職を促されるような雰囲気があります。そういった風土が会社ごとに異なるのではなく社会全体として変えていこうといった雰囲気になることが大切だと思いました。

設問 6【お子さんのいる方に伺います。お子様にジェンダー平等に関する話をしますか？】

- ・する 28.1%
- ・していない 71.9%

半数以上の方が話をしていないと回答されました。今回は乳幼児のママが多いこともあり、まだ話をするには早い段階の方が多いようです。

設問 7【日本人の「男だから、女だから」という意識は、教育格差にもつながっていることをご存じですか？】

- ・よく知っている 27%
- ・何となく知っている 49.6%
- ・あまり知らない 21.7%
- ・全く知らない 1.7%

最多回答は「何となく知っている 49.6%」でした。「男だから大学は絶対出ないとダメ」「女だからそこまで勉強頑張らなくても…」といった声を聞いたことがあるかもしれません。そのような考えが「教育格差」につながっていることを大人が自覚することが次世代での繰り返しの防止に繋がると思います。

設問 8【ご自身の年齢を教えてください】

- ・10代 0%
- ・20代 20%
- ・30代 65.2%
- ・40代 12.2%
- ・50代 2.6%
- ・60代以上 0%

30代が65.2%と一番多く、次いで20代 20%でした。

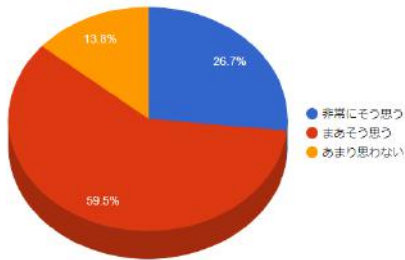
設問 9【お子様がいらっしゃる場合年齢を教えてください（複数回答可）】

- ・0～2歳 62%
- ・3～5歳 22.8%
- ・6歳～12歳 12%
- ・13歳～15歳 1.9%
- ・16歳～18歳 0.6%
- ・19歳以上 0.6%
- ・子供はいない 0%

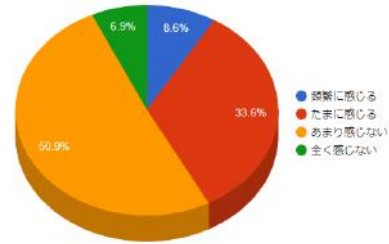
回答者全員お子様がいらっしゃる方で、「0～2歳 62%」で最多。次いで「3～5歳 22.8%」でした。

==== 調査結果グラフ =====

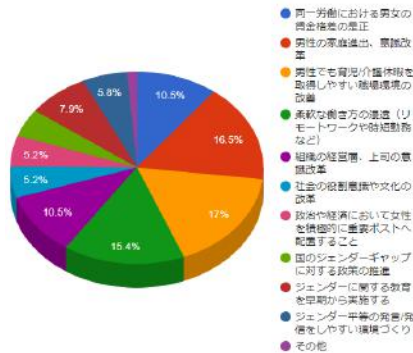
設問1：あなたは男女の格差を感じることがありますか？



設問2：あなたは「女性だから」「女性らしく」といった固定観念や役割意識から生きづらいつらと感じたことはありますか？

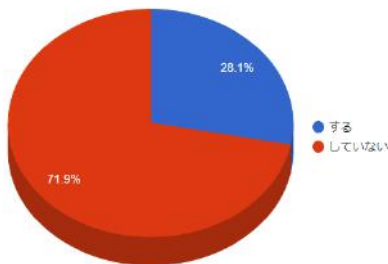


設問4：ジェンダーギャップ(男女格差)を埋めるためには、何が一番必要だと感じますか？
「上位3位まで」選択してください。

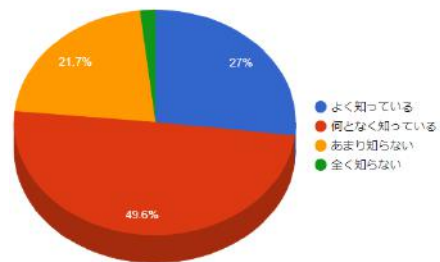


- ①男性でも育児/介護休暇を取得しやすい職場環境の改善 17%
- ②男性の家庭進出・意識改革 16.5%
- ③柔軟な働き方の浸透（リモートワークや時短勤務など） 15.4%
- ④同一労働における男女の賃金格差の是正 10.5%
- ④組織の経営層、上司の意識改革 10.5%
- ⑥ジェンダーに関する教育を早期から実施する 7.9%
- ⑦ジェンダー平等の発言/発信をしやすい環境づくり 5.8%
- ⑧社会の役割意識や文化の改革 5.2%
- ⑧政治や経済において女性を積極的に重要ポストへ配置すること 5.2%
- ⑩国のジェンダーギャップに対する施策の推進 4.7%
- ⑪その他 1.3%

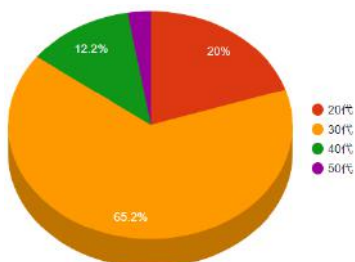
設問6：お子さんのいる方に伺います。
お子様にジェンダー平等に関する話をしますか？



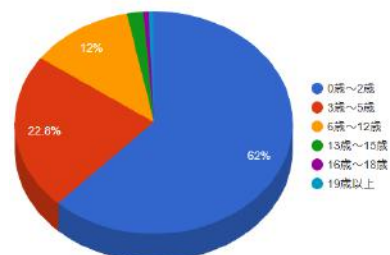
設問7：日本人の「男だから、女だから」という意識は、教育格差にも繋がっていることをご存知ですか？



設問8：ご自身の年齢を教えてください



設問9：お子様がいらっしゃる場合年齢を教えてください。（複数回答可）



■お問い合わせ：一般社団法人ウーマンエンパワー協会
東京都中央区銀座7丁目13番6号 サガミビル2階
Email：womanempower2023@rubato.co.jp
TEL：047-409-0244
(調査協力：株式会社ルバート)